

(2) 廊下等に設ける段及び傾斜路

	整備基準	図面及び各項目の名称・番号等	設計内容	判定	留意事項
				基準	
廊下等に設ける段	両側に連続した手すりを設置		(手すり) ・有 ・無		
	回り段を設けない。		(回り段) ・有 ・無		
	粗面又は滑りにくい床仕上材		(床仕上材)		
	段を識別しやすい構造		・踏面、蹴上げ、段鼻の色を変える。 ・その他 ()		
	つまずきにくい構造		・蹴込み板を設け、段鼻を突き出さない。 ・その他 ()		
	段の上端及び下端付近の廊下等及び踊場に点状ブロックを敷設		平面図に敷設箇所を記入し、使用する点状ブロックのカタログ等を添付してください。		
廊下等に設ける傾斜路	内のり幅1.2m以上 (段を併設する場合は、90 c m以上)		(最小内のり幅) m		傾斜路の手すりは、当該傾斜路に段を併設する場合、片側だけの設置とすることができます。
	勾配1/12以下 (高低差が16 c m以下の場合は、1/8以下)		(最大勾配)		
	高さが75 c m以内ごとに踏幅1.5m以上の踊場を設置		(踊場の有無) ・有 ・無 (踊場の踏幅) m		
	両側に連続した手すりを設置		(手すり) ・有 ・無		
	粗面又は滑りにくい床仕上材		(床仕上材)		
	踊場及び傾斜路に接する廊下等と識別しやすい色調		(傾斜路の色) (その他の色)		
	壁等に接していない縁には、転落を防ぐ5 c m以上の立ち上がりの設置		(立ち上がり) ・有 (c m) ・無		
	傾斜路の上端及び下端付近の廊下等及び踊場に点状ブロックを敷設		平面図に敷設箇所を記入し、使用する点状ブロックのカタログ等を添付してください。		

(注意) 1 用語の説明

- (1) 「傾斜路」は、勾配が1/20を超えるものが該当します。
- (2) 「点状ブロック」については、注意事項（共通）を参照してください。